
憂いの銀バッヂ

Y-m a

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

憂いの銀バツチ

【Zコード】

N5870Z

【作者名】

Y-ma

【あらすじ】

ある裏社会を取り仕切る男のとある話

俺は今…人を殺さんとしている
採算の合わない殺しだ…

奴さん方は、散々締め倒したが、ビツとも言つよつとはならない。
と来た…

チヤカはやるから、あんたがあんたの敵を殺しな…と言つわけだ

まあ…まだドスじゃないだけましか…罪の意識はいくらか軽い

俺が結果的に殺したい相手

まつわいじて単なるチンペリなどだが、俺の口を語り好き放題やつたよひで

その勢になり、良こ玉になるだらつと銀バッヂを渡したのが運の刃の運の刃

ヤンの奴顔を真っ赤にして、俺を殴りやがった…

俺は「こいつを仕切るものだから、当然取り巻きが半殺しへはしたんだが…」

ヤンの奴はやり方を変えねえ

俺も、下手打つてない取り巻きをドヤすのは気が引けるが…綿まつてないもんは仕方ないだろう

と甘いことを言つてる内に、イカレた話だが、終いにヤンは俺に対し恋心を抱いた…ストーカーって奴だ

中国マフィアの下っ端とは言え中国人だ
人間様の生活なんぞ似通つてることくらい知つてんだろうが

何とも場が悪い…

笑つて済ませれている内が華つてもんだりつへ

まあ…下種な話は端折らしてもうつが…なぜ俺が手を汚さにやら
んのか？

取り巻きの不信感にこれ以上油を注ぐわけにもいかねえが…

奴さん方も所詮は甘い汁を吸いたがる虫蠅か…

なんてこたあ言わねえが

「おひつーヤン！有り難く思えよつ！俺のファンに成り下がつた貴様に明日はねえ…俺様が直々に片付けてやらあ！」

ヤンのやつは鳩が豆鉄砲でも喰らつたかのようにキョトンとした…

そのまま後、腹を抱えて笑い出した

「アハハハハッ あんたまだヤクザなのか？ふ、ファンはファンだし、素性は嗅ぎ回らしてもうつたが、あんたがバカにされてるんだよ！」

「ファンッ！」

まつたく… 口ひきをつかうてんだ
ヤンの奴はじりじりテメーの不甲斐なさを自由と履き違えていたみ
たいだな…

「お、おこひ…貴様何やつてる…」

ば、バカな…公安が張り付いてやがったか…

仕方ねえ…ケジメはケジメだ
俺が頭張ってる理由もそれだからな…
公安とは持ちつ持たれつなんだ

うなだれながら、連行される俺を取り巻きが見送る

「お頭…すまねえ俺達足洗うことにしてよ…」

一人の若いのが、思いつきり頭を下げた
それに続けと言わんばかりに皆、俺に頭を下げた

そうか…これで終わりか

俺はパートカーの中を考えを巡らせていた

実質の勢力のこと…奴さん方が口がな考えていた形

アイドル…

柄にもないが、俺は彼奴等にとってはアイドルだったのか？憧れつて奴か…

「フフッ…いや、不甲斐ないのは俺か…」

奴さん方と疎遠だったのは俺の方だったたつてのか…

「俺を喜ばすために彼奴等…くつ…」

左目から一筋の涙がこぼれた

人は死んだ後名が上がる…ヤンみたいな下種野郎も俺の中ではでかい存在となつた
世の中は巧くできている

それにて死せる…

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5870z/>

憂いの銀バッヂ

2011年12月19日18時46分発行